

紫野

MURASAKINO

2024
vol. 16



学生
Voice

学長
Voice

大学の国際化に向けて
活躍するびわ学生たち

大学の国際化に向けて

2023年3月、政府より「10年後までに年間40万人の有望な留学生の受け入れを進めていく」ことが示されました。少子化による18歳人口の減少と高等教育におけるグローバル競争の波に直面する今、大学が国際社会での存在意義を高め、高等教育に対するグローバルなニーズに応えることが求められています。本学のような地方小規模大学では国際化にどのように対応するべきか。国際センターの立ち上げや中国訪問など、精力的な活動を続ける沖田行司学長に話をうかがいました。

国際化への思い

現在、本学には外国人留学生が在籍していません。近隣大学を見ても、留学生が在籍していない大学はほとんどない状況です。有り難いことに、本学では地元の生徒を中心に多くの方に入学いただいておりましたが、18歳人口が減少する中、安定的に定員を確保するためにも国際化を進め、留学生の受け入れを促進していきたいと考えています。

異国で学ぶ留学生の多くは、新しい環境に適応しながら、目標を達成するために必死に頑張っています。異なる文化や育った環境が異なる留学生と時間を共有し、自分とは違う考え方や意見を持つ同年代の学生と交流を持つことは、(日本人)学生の大きな刺激となり、人生が変わる出会いや新たな価値の創造などにつながるでしょう。

また、世界各国から観光客が訪れる隣の京都府と比べると知名度の低い滋賀県ですが、琵琶湖を中心とした美しい山なみと、神社仏閣をはじめとする歴史ある建築物を備えた美しい風景が味わえるとても魅力的な地域です。留学生に限らず、1人でも多くの外国人に滋賀県を訪れていただき、その魅力に触れてほしいと思っています。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、なかなか留学生の受け入れをはじめとした国際化について検討することができませんでしたが、人々の外国への往来がコロナ前の状況に戻りつつある中、大学の国際化を進めるべく取り組みを進めています。

内蒙(モンゴル)民族幼児師範高等専科学校と学術交流を目的とした協定を締結

7月下旬、沖田学長をはじめとする教職員4名が中国を訪問し、内蒙(モンゴル)民族幼児師範高等専科学校と学術交流を目的とした協定を締結しました。内モンゴル自治区オルドス市に位置する内蒙(モンゴル)民族幼児師範高等専科学校は、日本の短期大学にあたる三年制の学校で、1980年の設立以来40年以上の歴史があります。学校は、幼児教育、芸術など四学科で構成されており、約4,850名の学生が在籍しています。

協定の締結は、2024(令和6)年7月30日に内蒙(モンゴル)民族幼児師範高等専科学校において行われ、李春暉校長と本学の沖田行司学長が協定書に署名を行い、今後、両校が友好的な関係を築きあることで合意しました。

コロナが発生した2020年(令和2)年以降、海外の学校と協定を締結するのは初のケースで、互いに幼児教育・保育の専門教育を行う教育機関として、学生・教職員の交流をはじめとした学校間の交流が活発に行われることが期待されています。



李春暉校長(左)と沖田学長(右)



協定式の様子と記念品授与(上) 学校見学の様子(下)



中国における幼稚教育・保育分野への期待

本学の教育内容を考えると、教育・保育系の学科等を持っている学校は親和性が高く、該当する学校との連携を模索していました。

激しい受験戦争がある中国では、小学校を念頭に置いた幼稚園の準備教育などが一般化している一方、「一人っ子政策」の影響もあり、祖父母が日常的に孫の世話をするという世帯も珍しくなく、その影響もあって、保育者の保育技能の修得等に遅れがあり、日本の幼稚教育・保育分野のノウハウを求めておられるなどの情報が関係者を通じて届いていました。

中国では幼稚教育・保育人材の育成を、主に日本の短期大学にあたる三年制の学校で実施されています。最初から日本で学びたい方、中国で学んだあと専門を深めたい方が学士(四年制大学卒)や修士(大学院修士課程修了)の学位を希望するなど、様々なニーズがあると聞いています。

国内の大規模大学で幼稚教育・保育分野の教育・研究を行っている大学はありません。四大・短大とともに幼稚教育・保育分野の教育課程を持つ本学なら、留学生の受け入れをはじめ、今後も連携を深めていけると考え、実際にオンライン等で中国の学校関係者と意見交換をしながら調整を進めています。

協定締結、大使館での大学説明会

7月下旬、中国を訪問し、内蒙民族幼稚師範高等専科学校と協定を締結しました。(前頁下段参照)

また、別の日には、北京にある日本大使館において、現地の学校関係者を対象とした説明会を開催し、本学の広報を行いました。外国での説明会は初めての試みでしたので不安もありましたが、9月に入ると参加校から協定締結に向けて前向きに取り組みたいとの声もいただいており、これからの進展に期待を抱いています。

今後、本学のような地方小規模私立大学が生き残るために、国際化が必要不可欠です。留学生の受入体制など課題はありますが、一つずつクリアしていくかなければなりません。



授業での海外研修の一場面 学生交流の様子(2024年3月)



PROFILE

学長 沖田 行司 (おきた ゆくじ)

1948年京都生まれ。同志社大学大学院
文学研究科 文化史学専攻博士後期課程修了。
同志社大学文学部講師、助教授などを経て、1990年
から教授。2005年より社会学部教授。2019年3月に
退職し、2020年4月から現職。専門は教育史。

学生への期待

本年3月、異文化理解を目的とした「国際文化論」の授業で教員と学生が中国を訪問しました。(左下写真参照)

大学の授業見学、伝統工芸の体験、文化施設の訪問、学校(幼稚園、小学校、特別支援学校等)見学、そして何よりも学生同士の交流を通じ、学生たちは感激し、価値観が変わる貴重な経験であったと述べる者もいたと聞きました。相互理解が深まり、参加者が世界に目を向ける良い機会になったことでしょう。

本学学生が少しでも海外で学べる機会を増やしたい、これも私の願いの1つです。自ら外国に出て現地で外国人学生と顔をあわせてコミュニケーションをとり、お互いを理解する。1人でも多くの学生にこのような経験を積んでほしいと思っており、そのため短期研修制度や海外体験プログラムの創設も検討しています。

グローバル化の進行は避けて通れません。これからは多様性を受け入れられる柔軟性や、世界にとっての利益など国際的な視野を持った人材が求められるでしょう。学生の成長に寄与する教育を提供し、社会に必要な人材の輩出を続けていきたいと思っています。

活躍する びわ学生たち

フリースタイルスキー・
モーグルでジュニア世界
選手権に出場し、
将来は五輪出場を目指す!

教育福祉学部
スポーツ教育学科 2年生

小笠 海成(おざさ かいせい)さん

2年連続でジュニア世界選手権に出場。
夏場は陸上競技部でトレーニングを積み、
五輪を目指す小笠さんに話を伺いました。



スキーとの出会いと競技への取り組み

親の影響で姉がスキーをするようになりました。自分も物心つく前からスキーをはじめ、気づいたらコブで滑っていました。小学5年生からモーグル競技の選手として大会に出場しています。モーグル競技は、コブが深く急な斜面の滑走において、ターン技術、エア演技、スピードに対するターン点、エア点、タイム点の合計点数を競います。また、2人で同時に滑るトーナメント方式のデュアル競技もあります。子どもの頃から冬になると、奥伊吹スキー場や岐阜県のスキー場で練習しており、モーグルを本格的に始めてからは、オフ期間も三重県のジャンプ台のある施設で技を磨いています。現在、大学では陸上競技部に所属し、体幹強化、筋力アップ、瞬発力アップのためにフィジカルトレーニングに取り組んでいます。

ケガとのたたかい・自身の成長

中学1年生の時に右足に大ケガをしました。その前年にもケガをして大会に出場できなかったので、2年続けて大会に出られなくなりました。活躍する同世代のライバルとは差が開き、さすがに落ち込む時期もありました。2回目のケガの際は引退の話も出ましたが、中途半端なままで終わることは絶対にしたくなかったので、迷わず競技続行を選びました。ケガをすると競技ができませんが、ケガを恐れていては上達できません。早くモーグルをしたいという気持ちがリハビリやトレーニングに向かう身体を動かしてくれました。大会に出場できなかったこの2年間は、特に多くの方に支えていただきました。周囲への感謝、モーグルができることの喜びなどを感じ、精神的に自分が成長できた期間だったと思っています。

上達できる楽しみ・今後の目標

高校3年生で全日本ジュニアの強化指定選手に選出いただき、国際大会にも出られるようになりました。大会で海外選手のレベルの高さに触れ、上には上がいることを知り、世界で戦うには身体も技術もレベルアップすることが必要だと痛感しました。同時に、新たな目標ができてうれしい気持ちになりました。自分にはまだまだ伸びしろがある、もっとうまくなれる、そういう刺激をもらって、一層、練習に力が入るようになりました。苦しい練習はたくさんありますが、何度も何度も失敗を重ねたことがようやくできるようになった時など、自分が上達するのが楽しくて仕方ありません。

今年度最大の目標は、2025(令和7)年3月に実施予定の全日本選手権で上位に進出すること。それができればその先のワールドカップや五輪が見えてきます。決して簡単ではありませんが、地道に練習に取り組み、得意のエアを磨き、ターンの技術を向上させ、納得できる滑りをしたいと思っています。自分の活躍が、認知度が低いモーグル競技の活性化につながれば最高です。今も昔も『モーグルをやっている間は、全力で楽しむことを忘れず努力して上を目指す』と決めています。1人でも多くの方にご声援いただければうれしいです。

PROFILE

小笠 海成 甲賀市出身
2023年3月綾羽高校卒

●直近2年間の主要成績

- 2023年3月 JOCジュニアオリンピックカップ2023
全日本ジュニアスキー選手権大会 3位
- 2023年3月 第43回全日本スキー選手権大会 6位
- 2024年3月 第44回全日本スキー選手権大会 10位
- 2024年4月 ジュニア世界選手権(於:イタリア)
(シングル13位、デュアル9位)



滋賀県知事の前で プレゼンテーション！

教育福祉学部 子ども学科 3年生

嘉奈 万由子 (かな まゆこ)さん

仲 愛依 (なか あい)さん

教育福祉学部 子ども学科 4年生

中森 璃莉 (なかもり りり)さん

内藤紀代子教授のゼミに所属する学生有志が「BGU若鮎隊」として、性犯罪、性暴力の被害者・加害者にならないための啓発活動に取り組んでいます。若鮎隊のメンバーが、滋賀県知事が会長となる第2回「なくそう犯罪」滋賀安全なまちづくり実践県民会議(8月6日)において、取り組みを発表しました。

内藤ゼミの先輩の活動実績が評価されました

若者(15~19歳)のスマートフォン所有率が97%を超え、SNSを通じた出会いや交流が当たり前の世の中になりました。それに伴い、SNSに起因する性犯罪も増えつつあります。子ども学科の内藤ゼミでは、若者が性犯罪、性暴力に巻き込まれてほしくないとの思いから、10年以上前から被害を防止するための啓発活動に取り組んでいます。2022~2023年度の2年間でも、内藤教授やゼミの先輩方が、合計1,200名を超える児童・生徒を対象に啓発活動を実施されてきました。私たちも3年生になる前にゼミを選択する際、当然、これらの活動に取り組みたいと思って内藤ゼミを希望しました。今回このような機会をいただいたのは、内藤ゼミの先輩方の実績が評価されたものだと思っています。

プレゼンテーションの様子

当日の会議には滋賀県知事、滋賀県警本部長をはじめ約100名の参加者がおられ、顔ぶれを見ただけで緊張が増しました。大学の授業での発表や、中学校・高校等に出向いての発表経験はありますが、人生の先輩方にプレゼンテーションをするのは、ほぼ初めての機会でした。第1部の会議が終わったあとが私たちの出番です。嘉奈→中森→仲の順で、約20分かけて発表しました。

嘉奈:自分が話しやすい言葉で説明することを意識しました。問い合わせへの反応や相槌など、聞いてくださる方々の反応を見ながら話をすることができました。

仲:最初は緊張が解けず、説明の言葉に詰まることが何回かありました。しかし、聞き直して、後半はうまくまとめることができました。



発表の様子

6年第2回「なくそう犯罪」滋賀安全なまちづくり 実践県民会議 総会



(左から) 仲さん、三日月滋賀県知事、嘉奈さん、中森さん、内藤教授、中村滋賀県警本部長(当時)

中森:発表後、中高生に興味を持って聞いてもらうための工夫等について質問をいただき、私が代表して答えました。興味を持って聞いていただけて良かったです。終了後には、三日月知事からも取り組みとプレゼンについてお褒めの言葉をいただき、とても嬉しい気持ちになりました。

学生たちの思い・今後の目標

嘉奈:性教育のテーマはデリケートな内容を含むため、対象学年によってスライドの資料や生徒への説明の仕方を変えるなど、発表までにかなり時間を要します。しかし、養護教諭を目指す私にとって貴重な経験ですので、引き続き積極的に関わっていきたいと思っています。

仲:2年次から出前授業に参加する機会をいただいていること、BGU若鮎隊での活動を通して、自分自身が成長していることを実感できています。学生生活は残り1年半です。「学生には時間がある」といわれますが、その時間を大切に使いながらもっと成長したいです。

中森:出前授業の活動を通して、将来は行政職として働きたいと思うようになりました。就職活動の面接試験に臨む際にも、BGU若鮎隊での活動とプレゼンテーション経験が活きました。おかげで公務員試験にも合格でき、来年4月からは行政職として頑張りたいです。

PROFILE



嘉奈 万由子
福井県出身
2022年3月
丹生高校卒



仲 愛依
和歌山県出身
2022年3月
南部高校卒



中森 璃莉
米原市出身
2021年3月
彦根翔西館高校卒

CLUB & CIRCLE

— クラブ・サークル —

多くの学生が好きなこと、
新しい可能性に向かって取り組み、
充実した大学生活を過ごしています。



広報・ボランティアサークル



吉田 大也 (代表)

教育福祉学部 子ども学科 3年生

広報・ボランティアサークルは、主に大学のオープンキャンパスや地域のボランティアに参加しています。オープンキャンパスでは、参加者の皆様に「来て良かった」と思っていただけることを目標とし、私たちも参加者の皆様と楽しくお話をさせていただいている。60名を超えるサークルの仲間たちと協力し、このサークルでしか経験できないことを通して成長しながら、和気あいあいと活動しています。

吹奏楽部



井上 優羽 (代表)

教育福祉学部 子ども学科 2年生

吹奏楽部は小さな音楽サークルから始まり、2020年に吹奏楽部としての活動が始まりました。現在19名の部員で、週に3回、放課後に活動しています。大学祭をはじめ地域のイベント等で演奏させていただいている。今年も「滋賀県吹奏楽コンクール県大会大学の部」に出席し、「銀賞きらめき賞」を受賞しました。吹奏楽部には、経験者だけでなく、ブランクのある人や大学から楽器を始めた人もいます。また、先輩後輩関係無く仲が良いのが吹奏楽部の特長です。まだまだ部員を募集しているので興味を持った方はぜひ入部お待ちしています。

和太鼓部 雷音



中村 巴茄 (2023年度 代表)

教育福祉学部 子ども学科 4年生

和太鼓部は地域のお祭りをはじめとした様々なイベントで演奏し、イベントを盛り上げています。部は10年以上の歴史があり、先輩方の実績のおかげで多くの団体などから出演依頼をいただいている。コロナの影響等で演奏ができない時期もあり、部員が減り今は先輩方の力を借りながら演奏活動しています。和太鼓は初心者に優しく演奏が全身運動にもなる魅力的な楽器です。これから入部も大歓迎ですので、興味がある方は、ぜひ見学にお越しください！



駅伝部



兵頭 拓真 (主将)

教育福祉学部 スポーツ教育学科 4年生

今年度で駅伝部は創部9年目になりました。現在、部員数は男子15名、女子2名の計17名で活動しています。4年生は部員の中でもっと多くの割合を占めており、学生競技最後の年、悔いの残らないようトラックレースや11月に開催される関西駅伝(丹後駅伝)を目標に後輩を引っ張りながら練習に励んでいます!! 夏には4年ぶりに合宿を2度開催し、個人の走力はもちろん、チームとしての一体感も身についたと感じています!

今後の活躍を乞うご期待!

サッカー部



宮腰 力 (主将)

教育福祉学部 子ども学科 4年生

私たちサッカー部は時岡監督の指導のもと、選手全員で日々切磋琢磨しながらトレーニングを積んできました。その結果、4部前期リーグは7勝1分1敗で2位でした。また、関西学生サッカー選手権では、1回戦がシードで2回戦が格上の大阪大学に2対1で勝利し、3回戦も格上の甲南大学に0対3で敗れはしましたが、最後まで諦めることなく果敢に攻め続けました。

9月から後期リーグが始まっています。選手、スタッフが一丸となり4部優勝、3部昇格を成し遂げます。

バスケットボール部



南川 晴飛 (代表)

教育福祉学部 スポーツ教育学科 4年生

私たちバスケットボール部は、学内体育館にて週3回程度、練習を行っています。練習メニューは、元プロバスケットボール選手であるコーチが作成してくださり、選手個々のレベルアップに努め、チーム力を高めています。時には厳しい練習もありますが、初心者から経験者まで全員で熱く、そして楽しく、関西学生リーグ3部昇格を目標に練習に取り組んでいます。共に目標に向かって頑張りたい方、興味のある方の選手・マネージャーの入部をお待ちしております。

陸上競技部



大本 さやか (マネージャー)

教育福祉学部 子ども学科 2年生

私たち陸上競技部は、現在選手・マネージャー等を含め28名で活動しています。選手として活躍するために練習する者もいれば、趣味や健康、体力づくり等の生涯スポーツのために運動する者など一人ひとりが目標を掲げて切磋琢磨しながら練習に取り組んでいます。普段は各自でアップを済ませ、全員でダッシュ系のメニューに取り組んだあと、専門の種目練習をします。それぞれ目標は異なりますが、全員が陸上競技に全力で取り組むことができており、いつも仲良く和気あいあいとした雰囲気で練習をしています。応援よろしくお願ひします!

教育福祉学部

子ども学科

学部長・学科長(教授) 箱家 勝規

今年度の新入生オリエンテーションはガイダンスを含めて3日間行われましたが、今回初めて、そのうちの半日を使って新入生合同レクリエーションを実施しました。これは、子ども学科、スポーツ教育学科、短期大学部の新入生を一堂に会して、大学生活に早く慣れ親しんでもらうことを目的にしたものです。縁あって同じ大学、短期大学部に入学してきた学生同士に、大学や短大、学科やコースを越えた仲間づくりをしてほしかったからです。前半は緊張を隠せなかつた新入生が、後半は笑顔を見せながら新しくできた仲間と課題解決していく様子を見ることができ、予想以上の成果で大成功に終えることができました。この担当をしてくれた学生の皆さんとの企画力と実践力に改めて感心をしました。



さて、本学では、令和7年度から教育福祉学部に7つのコースを立ち上げます。教員になるためだけではなく、いち企業人として地域社会を支える人材育成コースの新設です。教員志望から民間企業への進路変更をよりしやすくできるようにしたことも大きな特色です。さらには、スポーツ教育学科で小学校教諭二種免許、子ども学科では中高等学校教諭二種免許(保健体育)も取得可能となるなどのカリキュラム編成も行っています。本学の特色である複数免許の取得をより一層しやすくしたことが大きな魅力になると考えています。

新しく生まれ変わる本学をどうぞこれからもご支援くださるようお願いいたします。



スポーツ教育学科

学科長(准教授) 高木 俊

スポーツ教育学科では、学生に寄り添った手厚い支援体制を整え、「スポーツ」や「教育」をキーワードに、地域に根ざした実践的な学びを推進しています。学科の基盤となる学びは、学科が設立された当初から変わらずに受け継がれています。

最近の本学科では、スポーツマネジメント、スポーツ心理学、スポーツ生理学など、専門性の高い学生主体の活動がさらに増えてきました。また、インクルーシブスポーツに関する企画運営やパラスポーツに関する地域連携など、特別支援領域からも新たな展開が生まれました。来年度からは、本学科のカリキュラムを実践的で選択肢の多いものにリニューアルします。学生が主役となった本学科特有の教育研究活動を通じて、学科の魅力をさらに高めていく準備を進めています。スポーツを通じて学校現場や地域社会に貢献できる多様な人材を育成することを目指します。



これまでにも出前授業などを通じて、教員の専門性を活かした地域貢献に取り組んできましたが、今年度からは系列校である滋賀学園高等学校アスリート躍進コースとの連携を強化しています。スポーツ振興は、学科における学びの深化だけではなく、学生募集、学生の健康づくり、学生生活の満足度向上など様々な側面を持っています。今後は、本学科が本学園のスポーツ振興を主導し、スポーツ教育環境の整備や課外活動の支援、広報強化にも積極的に取り組みたいと考えています。

最後になりましたが、今後も本学科の発展にご協力いただけると幸いです。よろしくお願ひ申し上げます。



短期大学部

ライフデザイン学科

学科長(教授) 榎本 恵理



短期大学部ではフレッシュな新入生を迎えて今年度がスタートしました。四・短合同で実施した新入生オリエンテーションでは、上級生が立案した企画で会場は大いに盛り上がり、新入生もスムーズに学生生活に入れたようです。児童学コースや健康福祉コースでは、実習を数回体験し、現場で臨機応変に対応できる人材を目指して頑張っております。キャリアデザインコースでは、インターン活動や学内で開催される企業説明会等で就職につなげています。今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

健康福祉コース

准教授 山 和美



介護職員が不足している現状があり、何とか介護の仕事の魅力を発信するために、平和堂彦根ビバシティで、滋賀県庁・介護関係者・本学学生も参加した「しがけあ」を開催しました。本学は2年生の学生を中心に「学生プロジェクト」を立ち上げ、親と一緒に買い物に来られた子どもたちをターゲットに「介護カルタ」や「手作りボーリング」を楽しんでもらい、少しでも介護の仕事に興味を持ち、将来介護福祉士を目指してもらえることを祈りながらイベントに参加しました。

児童学コース

准教授 榎本 祐子



児童学コースは2024年3月卒業生の内、11人が現役で公立園に採用されるなど、多くが保育現場で活躍しています。

新入生はすっかりびわ学に溶け込み、キャンパスライフを楽しんでいる姿が見られます。恒例のごみゼロ運動(5月30日はゴミゼロの日です)にも取り組みました。

2年生も実習に就職活動にゼミ活動に忙しい1年ですがとても頑張っています。ゼミごとにこれまでの学びを生かしてオープンキャンパスで体験活動の提供もしています。

キャリアデザインコース

教授 長嶺 共全



2月の企業体験を終えて、キャリアデザインコースの2年生は、3月の学内合同企業説明会を経て、4月からは就職活動に力を入れつつ、学業の方も頑張っています。写真はコンピューター室でのゼミの様子です。そして、7月に実施された日本語ワープロ検定試験では、多くのキャリアデザインコースの学生が合格しました。また、同コース1年生の中には、夏の就業体験に向けて準備を進めている学生もいます。

2023年度(2024年3月卒) 就職状況

2023年度(2024年3月)の卒業者は、四大(教育福祉学部)120名(子ども学科91名、スポーツ教育学科29名)、短大(ライフデザイン学科)78名(児童学コース35名、健康福祉コース23名、キャリアデザインコース20名)でした。各学科・コース別の進路状況は以下の通りです。

教育福祉学部 進路状況

	子ども	スボ教
こども園・幼稚園・保育所	29	0
小・中学校教員、支援員	20	2
養護教員(小中高)	1	0
公務員 (行政・警察官・消防等)	1	1
福祉施設(児童・障害等)	13	1
一般企業	23	24
進学	0	0
その他	4	1
卒業生	91	29

ライフデザイン学科 進路状況

	児童	健康	キャリア
こども園・幼稚園・保育所	32	0	0
公務員 (行政・警察官・消防等)	0	0	1
福祉施設	1	20	0
一般企業	0	0	15
進学	0	1	1
その他	2	2	3
卒業生	35	23	20

学生自身の努力と本学の教育や各種対策講座等により、一般企業はじめ、教員・保育士や公務員等において本人の希望に応じた進路実現が達成できています。就職率(就職希望者に対する決定者の割合)は四大99.1%、短大98.0%で、進路内定率(全卒業生に対する進路決定者の割合)は、四大96.7%、短大91.0%で、全国平均よりも高い数値になっています。教育・福祉関係への専門就職が多いのが本学の特徴で、2024年3月卒業生の約60%が教育・福祉関係に就職しています。その中でも、こども園(幼稚園・保育所)の就職者が約60名と最も多く、そのうち約4人に1人が公立園に就職しています。また、2009(平成21)年に開学した子ども学科は12年間で約800名の卒業生を輩出していますが、そのうち約140名が教員採用試験に合格し、中でも小学校教員に110名以上が正規採用されています。

企業就職を希望する学生が、四大・短大あわせて30%程度いることから、キャリア支援センターに企業担当職員を配置し、サポートを強化しています。企業の採用意欲は堅調に推移していますが、就職活動の早期化・長期化が進んでおり、ゼミ担当教員とキャリア支援センターが学生情報を共有しながら、一人ひとりに応じたきめ細やかな支援に努めています。

就職支援の強化に向け、京都府・福井県と「就職支援協定」を締結

県外就職を希望する学生の支援強化のため、2024年7月、京都府並びに福井県と就職支援協定を締結しました。

協定では、インターンシップの実施や大学内での合同企業説明会等イベントの実施、学生や保護者に向けた就職セミナー開催などの項目を掲げています。

充実した進路支援プログラムときめ細かな指導で高い就職率を実現している本学ですが、学生の進路選択のメニューを増やし、一層、満足度が高い就職の実現に向けて取り組んでまいります。



京都府との締結式 沖田学長(左)



福井県との締結式 深田学生部長(キャリア支援担当)(右)

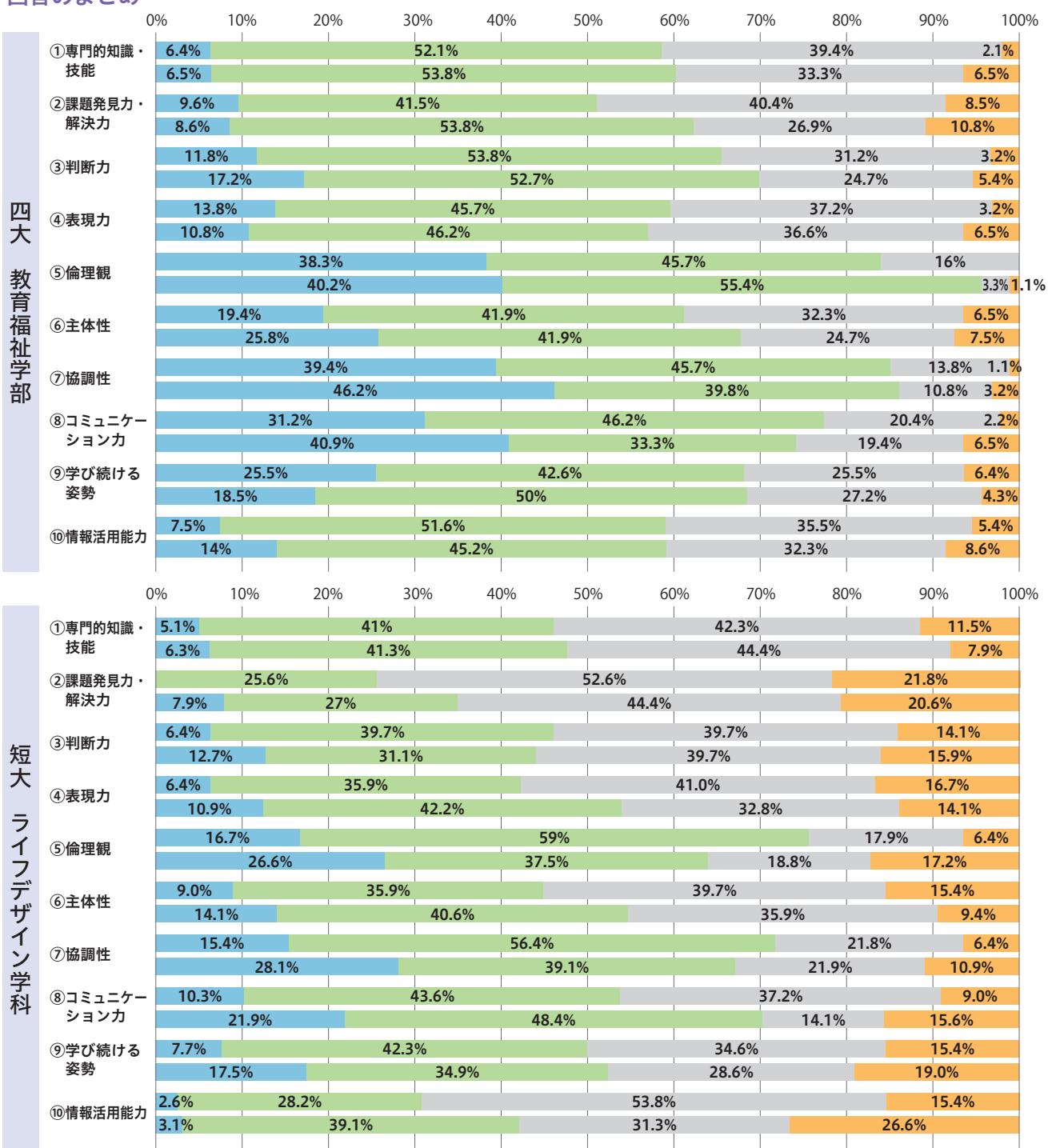
卒業生に関する就職先アンケートの結果

本学で学んだ卒業生が、本学の教育活動や在学中の学びを通じて得た知識、能力を実社会で発揮できているか等の観点から、就職先の学校、こども園（幼稚園・保育所）、企業、福祉施設等にアンケートを実施し卒業生に対する評価を聴取しています。アンケート結果は、教育改善や質向上に向けて学内での議論に活用しています。

アンケート 概要

実施期間：令和6(2024)年1月～2月(郵送またはGoogleFormsにて回答)
対象：令和4(2022)年3月及び令和5(2023)年3月卒業生が就職した事業所(企業、福祉施設…114名、学校・園…108名)
回収率：74.8%
設問：以下の10項目について4段階での回答及び自由記述
①専門的知識・技能 ②課題発見力・解決力 ③判断力 ④表現力 ⑤倫理観 ⑥主体性
⑦協調性 ⑧コミュニケーション力 ⑨学び続ける姿勢 ⑩情報活用能力

回答のまとめ



アンケート結果、総括は本学Webサイトにおいて公開しています。

▶▶▶ キャリア支援センターでは、各学生の希望進路の実現に向けて、以下のように希望進路別に講座を実施しています。

1 教員(小・中・高・養護・特支)を目指す人対象

4年時の夏に実施される採用試験の合格に向けて、一般教養・教職教養・面接・論作文・模擬授業等の対策を行っています。

1年生	東京アカデミー 基礎学力養成講座	基礎学力対策講座
2年生		教員養成セミナー
3年生	東京アカデミー教員採用試験対策講座	教採対策講座
4年生	教採直前対策講座	

2 幼稚園教諭・保育士を目指す人対象

公立・私立園の採用選考に合格するよう、教員とキャリア支援センター職員が協力してその対策に万全を期しています。

【四大】

1年生	東京アカデミー 基礎学力養成講座	基礎学力対策講座
2年生		教員養成セミナー
3年生	東京アカデミー 基礎学力養成講座	幼保対策講座
4年生	教採直前対策講座（幼保）	

【短大】

1年生	東京アカデミー 基礎学力養成講座	基礎学力対策講座
2年生	教採直前対策講座（幼保）	

3 一般企業等を目指す人対象

就活支援会社と連携してセミナーや対策講座を開講し、できるだけ多くの情報を提供するとともに、個々の学生のニーズに応えられるようにしています。また、3月には学内合同企業説明会を実施しています。

【四大】

1年生	東京アカデミー 基礎学力養成講座	基礎学力対策講座
2年生		
3年生	就職対策セミナー	
4年生	就職対策講座	

【短大】

1年生	東京アカデミー 基礎学力養成講座	基礎学力 対策講座	就職対策 セミナー
2年生	就職対策講座		

キャリア支援センターについて

各種就職支援講座を開講し、履歴書・エントリーシートの添削、面接練習などのサポートを行っています。また、先輩の就職試験情報（筆記試験・面接の質問等）を収集・蓄積し、希望する学生の皆さんに提供しています。もちろん、学年にかかわらず、進路に関する相談をすることもできます。（1年生から利用できます。）気軽な気持ちで利用してください。

大学の求人検索システム

大学のポータルサイト（Web就職）には、企業・福祉施設・こども園（幼稚園・保育所）等からの求人情報を掲載しています。マイページで年度を設定して、ぜひご利用ください。



ポータルサイト

保護者向け就職支援ブックのお届け

大学3年生、短大1年生の保護者の皆様に「就職支援ブック」を送付しております。今どきの就活やお子様との接し方などの内容が掲載されています。ぜひ、お目通しください。

教員採用試験の「3年生受験」が開始

今夏に実施された教員採用試験において、滋賀県をはじめ、多くの自治体で大学3年生で教員採用試験（一次試験）を受験できる制度が広がっています。

教員不足が進む中、優秀な人材を確保するために設けられた制度で、3年生で一次試験に合格すれば、4年生は二次試験からの受験となり、3年生で不合格の場合も4年生で一次試験から再受験できます。

びわ学合同企業説明会

3月上旬、大学内において「びわ学合同企業説明会」を実施しています。

Webサイトではわからない企業の魅力、会社の雰囲気、担当者の人柄などを知り、直接、担当者に質問できることから、学生には満足度の高い説明会です。次回日程が決まり次第お知らせします。（四大1～2年生も参加できます。）



令和5年度 学校法人滋賀学園事業報告

1 法人の概要

(A) 設置する学校・学科等の入学定員・

学生数の状況 (学校法人基礎調査抜粋)

(単位:人)

学校名	学部・学科等	入学定員	R5.5.1
びわこ学院大学	教育福祉学部子ども学科	80 3年次編入 10	324
	スポーツ教育学科	40 3年次編入 5	109
びわこ学院大学 短期大学部	ライフデザイン学科	80	136
滋賀学園 高等学校	普通科	310	470
滋賀学園 中学校			10
びわこ学院大学 附属こども園あっぷる		80	69
総計		605	1,118

(B) 役員・教職員の概要

1. 役員 (令和6年3月31日現在)

【理事長】森 美和子

【理事】沖田 行司 近藤 芳治 森 亘
竹内 寛 豊田 三郎 竹脇 義成

【監事】森谷 伊三男 清水 忠和

2. 教職員 (令和5年5月1日現在)

(単位:人)

		本部	大学	短大	高校	中学校	こども園	計
教員	本務	—	25	11	42	4	19	101
	兼務	—	37	10	5	1	0	53
職員	本務	4	14	7	2	0	0	27
	兼務	1	7	6	5	1	0	20

2 事業の概要

学校法人	令和5年度中の理事会・評議員会の開催状況	(1)理事会 定例2回 臨時2回 計4回 (2)評議員会 定例2回 臨時2回 計4回
びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部	<p>大学・短大共通の共通項目 (重点項目) 1~3, <具体的な施策> 1~15</p> <p><重点項目></p> <ol style="list-style-type: none">1. 教学マネジメント体制の充実2. 研究制度の充実3. グローバル化の推進・魅力ある大学づくり <p><具体的な施策></p> <ol style="list-style-type: none">1. 学生の受入れ<ol style="list-style-type: none">① メディア広報の活性化② 入学者選抜の実施方針、入試内容の検証及び見直し③ 学長・教員の講演活動を通じた広報と認知度向上④ 本学の強みを再度確認し、周知に努める2. 学修支援<ol style="list-style-type: none">① 教員・職員等による学修支援体制の運用と点検② SA制度 効果検証に基づく導入科目の再検討③ 大学全体としての学外実習体制確立3. キャリア支援<ol style="list-style-type: none">① 「びわ学院キャリア塾」の成果の検証及び修正② 教員採用試験・公立幼稚園採用試験に向けての指導体制充実③ 一般就職支援一企業の学内説明会④ 地元企業との協定及び連携4. 学生サービス<ol style="list-style-type: none">① 学修支援のニーズ把握、総体的な支援策整備② 高等教育の修学支援新制度の対応体制の強化③ オフィスアワーの強化、学生との読書会、研究会の組織化5. 学修環境の整備<ol style="list-style-type: none">① 学修環境の整備② 学生の図書館利用頻度の向上③ 教職員ならびに学生のニーズに基づく図書館機能の充実④ ラーニングコモンズの活性化と有効利用⑤ 特色ある図書館の創出⑥ 大学紀要に関する教員の理解促進、投稿数増加、継続発行による紀要の充実⑦ 施設・設備の利便性向上6. 学生の意見・要望への対応<ol style="list-style-type: none">① 在学生の学生生活実態調査および満足度調査② 学長と学生との懇談会③ 卒業生アンケート調査(SNS対応)④ 学生相談室、カウンセラー配置による学生相談体制の充実⑤ 学長専用メールアドレスの周知	<p>7. 単位認定、卒業認定、修了認定</p> <ol style="list-style-type: none">① 原級留置制度廃止の検討② ボランティアならびに社会貢献の単位化の検討③ インターンシップの単位化の検討 <p>8. 教育課程及び教授方法</p> <ol style="list-style-type: none">① アセスメントポリシー(プラン)に関する学内方針の検討② 改正カリキュラムマップの運用と点検③ アクティブラーニング実施 <p>9. 学修成果の点検・評価</p> <ol style="list-style-type: none">① アセスメントポリシー(プラン)に関する学内方針の検討② 学修状況の把握・分析、フィードバック <p>10. 職員の研修</p> <ol style="list-style-type: none">① SD(Staff Development)への取り組み推進② IRer資格取得の推進 <p>11. 研究支援</p> <ol style="list-style-type: none">① 研究環境の整備と支援体制の確立② 科研費等、外部資金獲得増進③ 研究者倫理の向上と不正防止 <p>12. 地域・産学連携</p> <ol style="list-style-type: none">① 地域貢献活動(地域出前授業ユーカレッジ)の充実・発展② 大学地域課題解決支援事業等、内容が豊富な地域教育実践活動記録集の発行③ 包括的連携協定の締結と産学連携の強化 <p>13. 國際交流</p> <ol style="list-style-type: none">① 中国広西幼稚師範高等専科学校との交流協定とサマーセッションの実施② 留学生入学の体制強化③ オンラインを通じた来日前講義とその単位化 <p>14. 内部質保証のための自己点検・評価</p> <ol style="list-style-type: none">① 中期目標・計画の策定 令和6(2024)年度から令和10(2028)年度② IR(Institutional Research)組織の体制整備③ 教職課程の自己点検・評価④ PDCAサイクル確立及びその機能性の向上 <p>15. 補助金獲得の強化</p> <ol style="list-style-type: none">① 私立大学等改革総合支援事業等の補助金獲得に向けた検討 <p>上記情報は事業報告書から一部を抜粋したものです。 学校法人滋賀学園のホームページ(https://shigagakuen.net/) <情報公開>中、事業報告書・財務情報のファイルにおいて、事業概要・財務情報等の詳細を確認いただけます。</p>

令和5年度 学校法人滋賀学園事業報告

3 令和5年度決算の概要

①事業活動収支計算書

■教育活動収支			
科 目	予 算	決 算	差 異
事業活動収入の部			
学生生徒等納付金	900,545	937,496	△ 36,951
手数料	23,783	23,724	59
寄付金	31,300	29,495	1,805
経常費等補助金	484,028	488,090	△ 4,062
付随事業収入	17,866	17,877	△ 11
雑収入	53,047	48,734	4,313
教育活動収入計	1,510,569	1,545,417	△ 34,848
事業活動支出の部			
人件費	941,970	956,361	△ 14,391
教育研究経費	459,925	448,882	11,043
管理経費	244,487	234,046	10,441
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	1,646,382	1,639,288	7,094
教育活動収支差額	△ 135,813	△ 93,872	△ 41,941

■教育活動外収支			
科 目	予 算	決 算	差 異
事業活動収入の部			
受取利息・配当金	229	175	54
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	229	175	54
事業活動支出の部			
借入金等利息	1,585	1,904	△ 319
その他教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	1,585	1,904	△ 319
教育活動外収支差額	△ 1,356	△ 1,729	373
経常収支差額	△ 137,169	△ 95,600	△ 41,569

■特別収支			
科 目	予 算	決 算	差 異
事業活動収入の部			
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	170,076	171,077	△ 1,001
特別収入計	170,076	171,077	△ 1,001
事業活動支出の部			
資産処分差額	0	4,424	△ 4,424
その他の特別支出	0	2	△ 2
特別支出計	0	4,426	△ 4,426
特別収支差額	170,076	166,651	3,425
〔予備費〕	(20,000)	0	0
基本金組入前当年度収支差額	32,907	71,051	△ 38,144
基本金組入額合計	△ 362,982	△ 354,990	△ 7,992
当年度収支差額	△ 330,075	△ 283,940	△ 46,135
前年度線越収支差額	△ 3,148,957	△ 3,148,957	0
翌年度線越収支差額	△ 3,479,032	△ 3,432,897	△ 46,135
(参考)			
事業活動収入計	1,680,874	1,716,669	△ 35,795
事業活動支出計	1,647,967	1,645,618	2,349

②資金収支計算書

■収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	900,545	937,496	△ 36,951
手数料収入	23,783	23,724	59
寄付金収入	32,430	30,705	1,725
補助金収入	652,974	657,036	△ 4,062
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	17,866	17,877	△ 11
受取利息・配当金収入	229	175	54
雑収入	52,530	47,529	5,001
借入金等収入	150,000	150,000	0
前受金収入	148,080	148,955	△ 875
その他の収入	823,153	799,437	23,716
資金収入調整勘定	△ 217,010	△ 210,741	△ 6,269
前年度線越支払資金	758,805	758,805	0
収入の部合計	3,343,385	3,361,000	△ 17,615

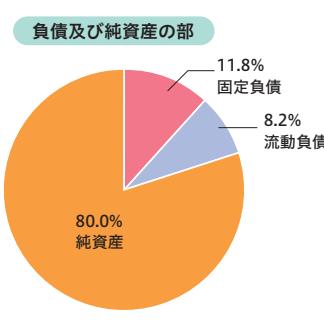
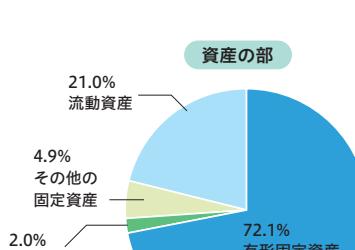
■支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	927,730	942,944	△ 15,214
教育研究経費支出	356,421	346,274	10,147
管理経費支出	212,403	202,050	10,353
借入金等利息支出	1,585	1,904	△ 319
借入金等返済支出	68,178	68,178	0
施設関係支出	189,379	188,774	605
設備関係支出	142,244	140,086	2,158
資産運用支出	70,000	70,000	0
その他の支出	846,578	822,330	24,248
〔予備費〕	(20,000)	0	0
資金支出調整勘定	△ 68,478	△ 88,112	19,634
翌年度線越支払資金	597,345	666,574	△ 69,229
支出の部合計	3,343,385	3,361,000	△ 17,615

③貸借対照表

■資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	2,776,601	2,515,849	260,752
有形固定資産	2,533,407	2,341,182	192,225
特定資産	70,000	0	70,000
その他の固定資産	173,194	174,667	△ 1,473
流动資産	737,674	831,668	△ 93,994
資産の部合計	3,514,275	3,347,517	166,758

■負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	416,314	296,493	119,821
流动負債	288,341	312,454	△ 24,113
負債の部合計	704,655	608,948	95,708

■純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	6,242,516	5,887,526	354,990
第1号基本金	6,141,516	5,786,526	354,990
第4号基本金	101,000	101,000	0
繰越収支差額	△ 3,432,897	△ 3,148,957	△ 283,940
翌年度線越収支差額	△ 3,432,897	△ 3,148,957	△ 283,940
純資産の部合計	2,809,620	2,738,569	71,051
負債及び純資産の部合計	3,514,275	3,347,517	166,758



事業活動収支計算書は、収支を経常的なもの（「教育活動」と「教育活動外」）と臨時的なもの（「特別収支」）に区分するものとし、経常的・臨時的それぞれの収支状況を把握することができるようになっています。また、毎期の収支バランスを見るのに適した基本金組入前の収支差額も計算書上に表示することになっています。

教育活動収支は、経常的な事業活動収支のうち、本業である教育活動の収支です。教育活動収入は1,545,417千円で、予算比34,848千円の増となり、教育活動支出は予算比7,094千円減の1,639,288千円となりましたので、教育活動収支差額93,872千円の支出超過となりました。

教育活動外収支は、経常的な財務活動に係る事業収入及び事業活動支出をいいます。教育活動外収入は受取利息・配当金のみで175千円となり、教育活動外支出は借入金利息のみで1,904千円となりましたので、教育活動外収支差額は1,729千円の支出超過となりました。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額の合計を経常収支差額といい、95,600千円の支出超過でした。

特別収支とは、臨時的な事業活動収入及び事業活動支出をいいます。特別収入は、施設設備補助金等で171,077千円となり、特別支出は、4,426千円でしたので、特別収支差額は166,651千円の収入超過となりました。

以上の結果、基本金組入前当年度収支差額は71,051千円となり、事業活動収支差額比率は4.1%となりました。

資金収支計算書とは、当該会計年度の諸活動に対する全ての収入・支出内容を明らかにし、かつ支払資金（現金及びいつでも引き出すことができる預貯金）の収入・支出の顛末を明らかにするものです。

令和5年度の資金収入は合計3,361,000千円となり予算比17,615千円の増となりました。資金支出は、当該年度の教育研究活動及びその他活動に対する支出であり、借入金返済支出や施設設備関係支出などを含んでいます。今年度は、翌年度線越支払資金が予算比69,229千円増の666,574千円となりました。

貸借対照表は、年度末における財政状態の健全性と学校運営に必要な資産の保有状況や負債状況について表したもので、資産は学校法人に投下された資金がどのように使われているかを表しており、負債及び自己資金は資産が他人の資金（負債）によって賄われているか、自己資金によって賄われているかを示しています。

令和5年度末の総資産は3,514,275千円であり、前年度末に比べて166,758千円増加しました。

その主な要因は教育研究用機器備品の取得によるものです。その結果、有形固定資産の構成比率は72.1%、流动資産の構成比率は21.0%となりました。

一方、負債の部合計は704,655千円で、前年度末より95,708千円増加しました。その主な要因は長期借入金の増加によるものです。

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた純資産（正味財産）は2,809,620千円となり、前年度に比べて71,051千円の増加となりました。

基本金は354,990千円を組入した結果、6,242,516千円となりました。

もみじがさい

紅葉賀祭

11月3日(日)祝

10:00~18:00(予定)

2024年テーマ 『はっぴい すまいる~小さな大学・大きな笑顔~』

よしもと お笑いライブ

※体育館の混雑の状況により、入場していただけない場合があります。



体育館
入場無料

模擬店

学生による模擬店
約20店舗出店予定



PayPay 今年度より導入!

有志発表

学生によるステージ発表
日頃の練習成果を披露します

アマハシライブ ダンス
和太鼓 吹奏楽 漫才

わくわくフェスタ

子ども学科の学生が楽しい遊びや
アトラクションを準備し、
地域の子どもたちをお迎えます



子どもたちが喜ぶ企画がいっぱい

bingo大会

豪華景品が当たるチャンス!



1枚200円
(購入枚数制限あり)

販売予定枚数600枚

駐車場あり



- JR 近江八幡駅→大学 無料送迎バスあり
- 休憩・飲食スペースあり
- おむつ交換スペース・授乳室完備

紅葉賀祭名物

晩秋の花火

大学祭のフィナーレを
飾ります!!

晩秋の夜空を彩る
連発花火

2024.11.3(日・祝)

17:30 スタート予定

and more...

記載の内容は変更になる可能性があります。
詳細は10月中旬以降に本学HPで案内します。

① 11月3日(日・祝) 保護者の皆様を対象にした説明会のお知らせ

右記の通り「学修指導及び進路・就職支援等に関する説明会」を行います。詳細は、個別に送付しております案内文書をご参照ください。

【日時】令和6年11月3日(日・祝) 9時00分~ 【会場】びわこ学院大学

【内容】進路・就職支援に関する説明、個別懇談(希望者) 等

② 出前授業のお知らせ ~ 大学の持つ知的財産を地域に還元 ~

本学独自の地域貢献事業として、「プレカレッジ」「ユーカレッジ」を実施しています。

プレカレッジ(中学生・高校生対象)

中学・高校生の方に大学での学びを体験していただく機会として、また、本学教員の専門性を活かした地域貢献として実施しています。

◆開講分野

- 教育(全般)(小学校系)(幼児教育・保育系)
(養護教諭系)(スポーツ系)(特別支援系)
- 福祉(全般)(介護系) ●情報 ●その他

担当

入学センター

TEL 0748-35-0006(直通) メール cl-admin@newton.ac.jp
大学等の地域連携に係る活動等についてのご意見も上記で募集しております。

「プレカレッジ」「ユーカレッジ」のメニュー等
詳細は右記QRコードからご確認ください。



ユーカレッジ(一般の方対象)

本学教員が学外に出向いて講義を実施する地域出前授業のことです。
自治体等の公的機関、市民団体、企業、NPO等の研修でご活用ください。

◆開講分野

- A:教育・子育て B:スポーツ C:人権・福祉
D:芸術・音楽 E:文化・歴史 F:情報技術・科学
G:健康・ライフスタイル H:環境・防災
I:政治・経済・ビジネス J:その他

◆授業概要

時間: 60~90分

開催日: 原則、土曜・日曜・祝日を除く平日

担当 地域・産学連携研究支援課

TEL 0748-35-0005(直通) メール ex-link@newton.ac.jp
大学等の地域連携に係る活動等についてのご意見も上記で募集しております。

迷うのは、 真剣だから。

子どもの頃のように、

無邪気に夢を語れなくなつたのは、

「未来」を真剣に考えはじめたからだと思う。

答えはすぐに見つからなくていい。

びわこ学院大学で、迷いながらも進む四年間が
きっと、進路を切り拓く大きな自信をくれる。

＼ 2025年4月／

びわこ学院大学は2学科7コース制へ。

「教育」×「ビジネス」の学びで、教員・公務員・企業就職をめざす。



プロモーションサイト



POINT
03

マネジメントコースで
教育以外も学べる！

企業論や公共政策論、データサイエンスやファイナンシャル実務など、ビジネスや情報系の科目が学べるコースを両学科に設置。ファイナンシャル・プランナーなどの資格を取得し一般企業就職や公務員試験の合格をめざします。

POINT
01

コース選択は2年生の春！

受験時に焦って選択しなくても大丈夫。学びを進めた2年次にコースを決めるので、納得したコース選択ができます。

POINT
02

免許・資格の組み合わせがさらに充実！

カリキュラムに柔軟性を持たせることで、免許の複数取得のバリエーションがさらに充実。全国的にも珍しい取得の組み合わせが人気です。

複数領域を学ぶことでマルチに活躍できる！進路選択の幅が広がる！		
Pattern 1	養護教諭 (保健室の先生)	Pattern 2 保育士
+	小学校教諭	幼稚園教諭
Pattern 3 中学保健体育教諭	小学校教諭	高校保健体育教諭
	+	特別支援学校教諭

Event Information

11/3 大学祭（紅葉賀祭）
保護者対象相談会・入試相談会同時開催
10:00-18:30 (予定)

12/8 OPEN CAMPUS
学科説明・体験授業・キャンパスツアー他
学食無料体験 11:30-14:00

